**東広島市立吉川小学校**

**主体的に学び，ふるさと吉川を創ろうとする子どもの育成**

**～思考力が高まるかかわり合いを通して～**

HP:http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/yoshikawa-sho/

教　諭　　　空　本　純　子

１　本校の概要

　　本校は，創立１４０年を超える伝統がある。自然環境に恵まれ，「美しい日本のむら景観百選」に選ばれた田園風景が広がっているが，工業団地等の開発により，地域の活性化も図られている。

昨年度から３・４年生が複式学級となり全５学級，全校児童５２名の小規模校で，小規模特認校制度を利用して今年度は４名の児童が他地域から通学している。児童のおよそ８割の家庭が３世代同居または同じ敷地内に住んでおり，地域の人々の教育に対する関心は高く協力的で，ふれあいの場でもある行事が盛んに行われている。

２　研究の概要

本校では，平成元年に文部省（現文部科学省）の生活科研究開発校としての指定を受け，その後も生活科・総合的な学習の時間を中心とした研究を行ってきた。21世紀に必要とされる学習意欲や思考力を身に付けるとともに，ふるさとのよさに気付き，大切にしようとする心情や態度を育成し，学校経営目標でもある「吉川を創ろうとする児童」を育むために，学習過程において，思考力が高まるよう児童とヒト・モノ・コトといった他者とのかかわり合いを意図的に仕組み，「地域貢献」をゴールに様々な探究活動を位置付けた「ふるさと学習」を創ってきた。

今年度からＥＳＤの視点を加え，目指す子ども像である「積極的に社会の問題を探究し，解決するための行動を起こすことのできる子」の育成も図るべく，研究を進めている。

３　実践

「吉川の自然増やし隊！～ホタルが舞うすてきな吉川を創ろう～」（昨年度３・４年生の取組）

（１）本単元におけるESD

　・単元の概要

　　　自分たちの生活する地域を調べ，実際に調査・観察をすることで，地域の魅力について深く学ぶとともに，地域の魅力と地域とがどのように結びついているか活動を通して学び，地域への愛着を深め，自然や人と進んでかかわりながら環境を大切にしていこうとする態度や実践力を育てていく。

　・【主なＥＳＤの視点】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 持続可能な社会づくりのための構成概念 | | | | | | ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 | | | | | | |
| Ⅰ  多  様  性 | Ⅱ  相  互  性 | Ⅲ  有  限  性 | Ⅳ  公  平  性 | Ⅴ  連  携  性 | Ⅵ  責  任  性 | ①  批  判  的  に  考  え  る  力 | ②  計未  画来  を像  立を  て予  る測  力し  て | ③  考多  え面  る的  力・  　総　　　　 合  的  に | ④  をコ  行ミ  うュ  力ニ  　ケ  　｜  　シ  　ョ  　ン | ⑤  他　者　と　協　力　す　る　態　度 | ⑥  つながりを尊重する態度 | ⑦  進  ん　で　参　加　す　る　態　度 |
| ○ | 〇 | 〇 |  |  |  |  | ○ | 〇 | 〇 | ○ | 〇 | ○ |

（２）単元の目標

　　　ホタルを増やすためにできることを地域の自然や人とのかかわりを大切にしながら調べたり実践したりする活動を通して，地域への愛着をもち，環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

（３）活動内容(全５５時間)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 小単元 | 学習内容 | ESD |
| １ | 古河川の自然の実態調査し隊！ | 川探検から，川の現在の様子を理解する。 | Ⅰ・Ⅲ  ② |
| ２ | 志和堀小学校の取組から考えよう！ | 実態調査結果と先進的取組を行っている学校の活動を関連させて考え，今後の課題を決定する。 |  |
| ３ | 自分の課題を詳しく調査し隊！ | 調べたい課題に合った方法で，グループごとに調べる。 | Ⅱ  ③④⑤ |
| ４ | 中間報告会を開き，パワーアップさせよう | これまで調べたことを地域の方に知らせたり友達と伝え合ったりし，さらに追究したいことを見つける。 | Ⅱ  ⑥ |
| ５ | 活動報告会を開こう | 学んだことをまとめ，報告会を開く。 |  |
| ６ | 学習を振り返ろう | 学習を振り返り，取組の成果とともに自分たちの成長を確認する。 | ⑦ |

（４）指導の実際

専門家と出会わせる機会を多く取り入れ，児童が自分の意見や考えをもち，学習を進められるよう考えた。東広島市役所で行っている「生涯学習まちづくり出前講座」（環境対策課）では川での生き物探しから水質を考えさせ，ホタルについて長年地域ぐるみで取組をしている市内小学校の３・４年生児童との交流の中からで自分たちにできることを考えさせた。また，新聞社主催の地元企業による「水の役割教室」で水を汚さない工夫や自然の浄化作用について知らせてもらい，それを受けて地域の方と一緒に炭を作る活動や炭について学ぶ機会を得た。これらの活動を通して，児童は自らの考えを深めたりよりよい行動をとろうと努力したりすることができた。

　　　また，これらの方との活動を１回で終わらせず，悩んだときにはいつでも質問ができるよう継続的に連携を図った。生き物の名前を尋ねたり自分たちの活動のアイディアが浮かんだ時に支援していただいたりすることができ，学習意欲を継続させながら活動を進めることができた。

　　　さらに，活動してきたことを地域や交流している小学校や市役所等，発信する場を設定した。このことは，くり返し自分たちの活動をふり返ることで，取り組んできたことの意味や自分たちの思いを確認したり，新たな活動のヒントを得たりすることにもつながった。

　　　この取組を環境省主催の「こどもホタレンジャー」に応募したところ，最優秀賞である環境大臣賞を受賞することができた。

４　成果と課題

　○課題解決に向かって他者とかかわりながら探究的な学習過程を繰り返し行っていく「ふるさと学習」はＥＳＤで重視する能力や態度の育成に通じるものである。このことで，児童にあらゆる角度からものごとを深く考える力が身に付き，活用力の向上にも結び付いてきた。

○これらの学習を通して，主体性や地域への誇りが高まってきている。児童アンケート「地域のために役立つことができたか」の結果は，年度当初６８．８％から８５．２％に増加した。

○これまでの教育活動をＥＳＤの視点で捉え直すことで児童への支援の仕方や声のかけ方も変わり，「積極的に社会の問題を探究し，解決するための行動を起こすことのできる子」の育成を図ることにつながっていく。

●ＥＳＤの視点が抽象的なままだと評価が難しい。児童に身に付けさせたい能力や態度を明確にして実践にあたり，児童に思考力を高め，他者とよりよくかかわりながら主体的に行動できる力を身に付けることができるよう研究を積み重ねていきたい。